



- ・令和4年度優良土づくり表彰  
農林水産省農産局長賞に  
片倉コープアグリ土壌医の会
- ・土壌医活躍中！ 豊嶋和人さん
- ・土づくり推進シンポジウム 2022
- ・土壌医の会活動助成について
- ・2022年度土壌医検定

## 土壌医の会全国協議会第6回全国交流大会 12月7日 日比谷図書文化館

「令和4年度優良土づくり表彰」～受賞者の表彰と成果発表が行われました～

今年度は、土壌医の会部門の山中啓史氏（片倉コープアグリ土壌医の会）が、「データ駆動型土づくり JA 山形セルリー一部会 収量性低下要因の網羅的解析及び生育改善への取組み」で、最優秀賞である農林水産省農産局長賞を受賞されました。



最優秀賞を受賞した山中啓史さん（右側）



受賞された取組みの発表

優良土づくり表彰の受賞者の皆さんと受賞された取組み内容は以下の通りです（敬称略）。

★農林水産省農産局長賞（最優秀賞）

- ・山中 啓史（片倉コープアグリ土壌医の会）

「データ駆動型土づくり JA 山形セルリー一部会 収量性低下要因の網羅的解析及び生育改善への取組み」

★日本土壌協会会長賞（個人部門）

- ・野々下 昌利（大日本産肥株式会社）

「堆肥入り〈指定混合肥料〉を活用した大豆生育改善と堆肥、下水汚泥由来再生リン(MAP)入り〈指定混合肥料〉開発による環境資源循環型農業の取組み」

- ・丸山 一成（新潟県上越市地域振興局）

「新潟県魚川市における地力診断と有機質肥料の肥効特性調査に基づく水稻収量・品質の向上指導」

★日本土壌協会会長賞（土壌医の会部門）

- ・大原 伴彦（アグロカネショウ土壌医の会）

「根ショウガ栽培における土壌物理性の改善の実施」

- ・森 昭暢（広島土壌医の会）

「農業高校や土壌医の会会員・会員以外の方を対象とした講師活動について」

★全国協議会会長賞（個人部門）

・市原 知幸（岐阜県西濃農林事務所）

「施設葉物野菜の硫酸イオンの影響と専用肥料の導入」

・金原 伸大（北海道農業大学校）

「春まき小麦の詳細調査結果と地域への波及」

・鷲尾 建紀（岡山県農林水産総合センター）

「水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策のフローチャートの作成」

・藤森 利雄（生産者）

「小学生への「土壌医」の紹介とヘチマの栽培指導」

★全国協議会会長賞（土壌医の会部門）

・大畑 和生（九州土壌医の会）

「農作物の適正な土壌水分を確保するための圃場物理性の判定と効果」

・青柳 敦子（片倉コープアグリ土壌医の会）

「土壌中の微量元素の存在形態から欠乏原因の推定と対策提案」

・神田 芙美佳（片倉コープアグリ土壌医の会）

「密苗×ペースト二段施肥による水稲生産の省力・軽労化・環境保全・収益向上の実践」

・長谷川 智重（両総土壌医の会）

「両総土壌医の会参加者のスキルアップと"土壌医"の認知向上活動」

齋藤雅典東北大学名誉教授による基調講演

「土壌を国家とみなせば微生物は国民に例とふべし」が行われました。



土壌医の会全国協議会全国交流大会では、日頃なかなか会う機会のない離れた地域の土壌医の会会員同士の交流が生まれます。右の写真は広島土壌医の会会長の森さん（左側）と両総土壌医の会（千葉県）会長の長谷川さん（右側）です。WEB 会議システムやインターネットコミュニケーションツールを利用して、広島と千葉の交流が始まります。既に両総土壌医の会と九州土壌医の会では WEB を介した交流が行われています。土壌医の会のネットワークの広がりが、土壌医の活躍の拡大につながります。

来年度はさらにたくさんの皆様の応募とご参加をお待ちしています。



## 土壌医 活躍中!

ニンニク栽培の失敗をきっかけに土壌医検定の勉強を始められ、2018年度の試験で見事1級に合格された、豊嶋和人さんに色々お話を伺いました。

家族経営生産者である豊嶋さんは、祖父の代から米農家ということもあり、20代後半に就農。香川県まんのう町で、水稻、露地野菜、イチジク、花き等を栽培されています。

### 【土壌医検定との出会い♥】

栽培していたニンニクが、収穫間近の5月になって、一雨ごとに枯れていった時に、肥培管理など土づくりの知識の必要性を感じたそうです。体系的に勉強したいなと思っていたら、土壌医検定が始まるという記事を見つけ、早速受験。土壌医検定が始まった年に2級を取得されました。

### 【土壌医1級試験の苦い思い出】

試験当日の朝、業績レポート作成が終わらなかった上に、積雪。結局、雪合戦でその日は終わったそうです。

【土壌医検定の勉強】 レベルに応じて体系的に学べるところがいいとのこと。

【土壌医資格のメリット】 資格保有者同士、**共通言語**で意思疎通を図ることができるのがいい。

【農家で土壌医であること】 圃場を一番よく知っている生産者自身が、土壌診断結果に基づき自分で判断できるのが強み。減肥、省コスト、省力に直結する。

【昆虫】 (害虫や天敵昆虫など昆虫全般にとっても詳しい豊嶋さんに、昆虫食構想について伺ってみました。)

就農後、虫の名前がわからないままなのが気持ち悪くて、いちいち調べるようになり、どんどん昆虫に詳しくなられたそうです。好きな昆虫は半翅目(カメムシなど)と、自分の代わりに仕事(害虫退治)をしてくれる土着天敵。昆虫食は10年くらい前から。きっかけは、南九州や高知にしかいなかったミナミアオカメムシの北上。集合フェロモンで集まってくるので、食べて駆除できないかなと、「**昆虫食一石二鳥効果**」を構想中。IPMならぬEPM(E=eat)なのだそうです。

ということで、カメムシの味についても伺いました。ヘリカメムシ類(特にホオズキカメムシ)は「青りんごフレーバー」、ミナミアオカメムシは「残念なパクチー風味」ということでした。

*\*豊嶋さんの楽しいトークが、小農ラジオでお聴ききいただけます。*

<https://open.spotify.com/episode/77z9iy3N6zDcxPt1j4mbmx>

[土壌医 talk-4 とよしまさん@九州土壌医の会 #69 - 小農ラジオ | Spotify でポッドキャスト](#)

【土壌医としての活動】 (九州土壌医の会所属、両総土壌医の会にも参加)

図書館や公民館で、講座や園芸雑談会をされています。最後に豊嶋さんから大切なお知らせです。

**香川県土壌医の会の設立準備中で、メンバーを募集しています!**

**\*\*お問い合わせは kouno@japan-soil.net まで**

## 事業体土壌医の会ご紹介コーナー

は、都合によりお休みさせていただきます。



家の光協会の「地上」誌で「豊嶋和人のよもよも話」という書評コラムを連載中です。



# 土づくり推進フォーラムシンポジウム 2022年12月21日 日比谷図書文化館

「土壌微生物の作物生育等への活用最前線」をテーマとして、講演と総合討論が行われました。土着菌根菌やエンドファイトなど、非常に注目を集めている話題だけに、会場参加者61名、WEB参加者171名、合計232名の皆様にご参加いただきました。



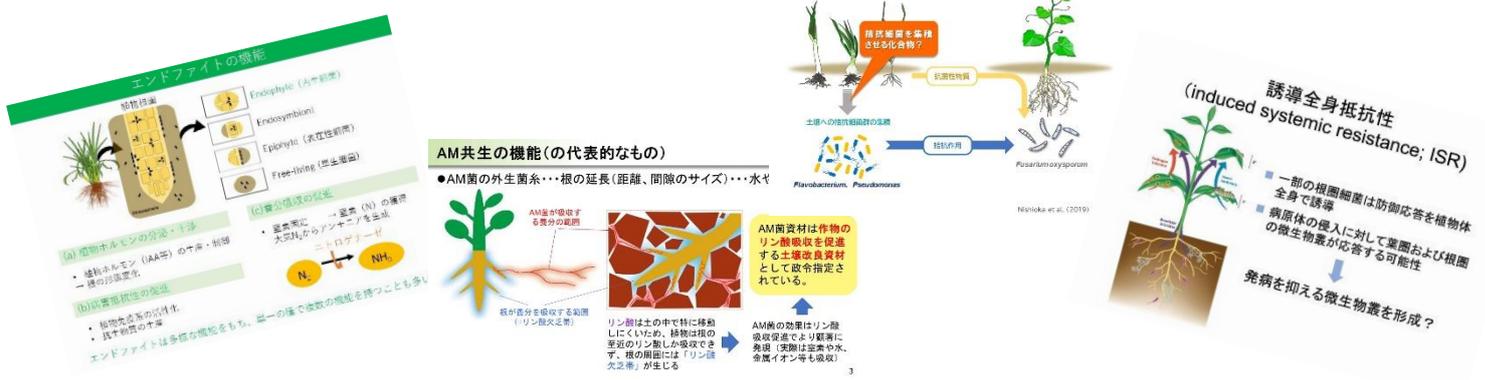
## 講演内容

- ① 「輪作体系での土着 AM 菌活用によるリン酸減肥」 農研機構 大友 量 氏
- ② 「エンドファイト活用による作物の養分吸収等の向上」 名古屋大学大学院生命農学研究所 新庄 莉奈 氏
- ③ 「根圏微生物叢の改善による作物の養分吸収促進と発病抑止」 静岡大学農学部生物資源科学科 橋本 将典 氏
- ④ 「発病抑止力を高めるための土壌微生物叢の改善」 岐阜大学応用生物科学部応用生物科学科 清水 将文 氏

講演後に行われた総合討論では、活発な質疑応答が行われました。

古くから伝承されている混植や輪作の土壌病害抑制効果の検証や、そのメカニズムのモデル植物による解明が、日々進んでいます。ヒトの腸内環境を整える乳酸菌飲料やヨーグルトのような、植物健康維持資材の開発につながるといいですね。

ネギ類混植・輪作のフザリウム萎凋病抑制メカニズム



## 土壤医の会の活動に対する助成について

土壤医の会全国協議会では、以下のような土壤医の会の活動に対して、助成を行っています。

- ① 適切な土壤診断と処方箋作成を支援していく上で必要なデータベース整備
- ② 農業高校等での出前研修への講師派遣
- ③ 地域土壤医の会正会員以外を主な対象とした土づくり普及のための研修会
- ④ 地域土壤医の会における事業計画推進
- ⑤ 土壤医の会の正会員以外を主な対象とした土壤 pH 測定などの簡易土壤診断や土づくり相談会
- ⑥ 農業法人、農業協同組合、市町村等、関係機関に対する土づくりの普及活動（土壤医検定試験のパンフレットや地域土壤医の会の活動紹介資料の配布等の PR 活動）
- ⑦ 土づくりを推進する上で有益と考えられる調査事業
- ⑧ その他、全国協議会の幹事会において必要と認めた事業

詳細については下記 URL をご参照ください。

<https://soil-doctor.net/wp-content/uploads/2022/08/subsidy202208.pdf>

[subsidy202208.pdf](https://soil-doctor.net/wp-content/uploads/2022/08/subsidy202208.pdf) ([soil-doctor.net](https://soil-doctor.net))

\*令和 4 年度は、現時点で 2 件の助成申請があります。

- ・「農業法人等の関係機関に土壤医検定試験への取組等の土づくりの重要性の PR を行う事業」高知土壤医の会
  - ・「土づくり普及のため土壤医の会会員以外の方を主な対象とした研修会」近畿土壤医の会
- 助成制度を、ぜひ土壤医の会の活動の推進に、お役立てください。

## 2022 年土壤医検定

2022 年度の土壤医検定試験が 2 月 12 日（日曜日）に行われます。土壤医の会の皆様の努力により、一般会場の東金会場（千葉県）と高崎会場（群馬県）が新設されました。また、日本農業実践学園（茨城県）さんが、団体専用受験会場として新たに加わっていただきました。土壤医検定対策勉強会も、各地の土壤医の会で盛んに行われています。私たち土壤医の会会員の仲間づくりが活発化しています。

土壤医検定の群馬県初開催に尽力された土壤医の井田憲治さん（群馬県藤岡市）が、上毛新聞（11月2日）の「ひと」というコーナーでその功績を取り上げられました。右の写真は上毛新聞の記事より転載させていただきました。



今年も残りわずかになりました。

各地で記録的な大雪による被害が起きていますが、皆様の地域は大丈夫でしょうか。

皆様、健康に留意され、良いお年をお迎えください。

来年もよろしく願い致します！

